

慶応義塾大学  
デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター  
(DMC)  
特任講師

## 石川 尋代

ISHIKAWA Hiroyo

### Profile

1993年 名古屋工業大学 工学部 電気情報工学科 卒業  
1995年 名古屋工業大学大学院工学研究科  
電気情報工学専攻博士前期課程修了・修士(工学)  
1995年 日立中部ソフトウェア株式会社  
1999年 名古屋工業大学大学院工学研究科  
電気情報工学専攻博士後期課程  
2003年 慶應義塾大学 特別研究助手(大学院理工学研究科)  
2007年 慶應義塾大学大学院理工学研究科 博士課程  
開放環境科学専攻 入学  
2010年 博士(工学)取得(慶應義塾大学)  
2010年 慶應義塾大学研究員(大学院理工学研究科)  
2011年 慶應義塾大学 特任助教(大学院理工学研究科)  
2012年 慶應義塾大学 特任助教(DMC研究センター)  
2014年 慶應義塾大学 特任講師(DMC研究センター)

コンテンツの関係や  
多様性をデジタルで表現。  
情報を選択し、  
自分の言葉で伝える努力を。

Role Model 13 | Research Fellow Hiroyo ISHIKAWA

デジタルコンテンツ間の  
関係を可視化。  
人文系と連携し新たな分野を構築。

デジタルコンテンツの利活用促進を目的として、コンテンツ間の関係を記述する“Catalogue”やその可視化に関する研究、およびそれらを利用したインタラクティブ展示システム「MoSaIC」の開発に取り組んでいます。博物館や美術館などのコンテンツデータを有向グラフで繋げて、1つを選択すると、ほかのデータが紐づいて出てくるというようなコンテキストネットワークを実現しようとしています。独立分散型ネットワークのデータベースは他の先生が担当し、私はユーザ側のアプリケーションを担当しています。複数の“Catalogue”が共有するオブジェクトによって繋がっていくことで、コンテンツ間の関係や文脈の多様性をデジタル表現する試みです。関係のモデリングのため、二つの構造(“Grouping”と“Associating”)を提案。“Grouping”はオブジェクトを集めること。“Associating”は、二つのオブジェクト間の関係を記述すること。これらの組み合わせでコンテンツ間の関係をモデル化できるという提案をしています。人文系と理系がコラボレーションしてそこから新しいものを作る試みなので面白い反面、大変なことであります。現在、仕組みはおおよそできたので、今後は人文系の先生方の考えも取り入れながら実運用の検証をしていきたいと考えています。

企業へ就職後再び研究の道へ。  
恩師の言葉が研究の  
モチベーションに。

名工大電気情報工学専攻の博士前期課程を修了後、一般企業に就職し4年間ソフトウェア開発をしていましたが、4年の研究室でお世話になった先生にお願いして博士課程で再び研究をすることになりました。その後、名工大を辞めて慶應義塾大学に入り直し学位を取得しました。その間、文科省系のプロジェクトに9年ほど関わり、ちょうどデジタルメディア・コンテンツ統合研究センター(DMC)ができた直後に参加させていただき6年が経ちます。研究が面白い、続けていきたいと思ったのは、学部4年の時の先生の影響が大きかったです。「研究は実用的で役に立つものか、学術的に探究するものかどちらかでないとする意味がない」とおっしゃった先生の言葉がいまでも残っています。つまり、研究のために研究をやるのはダメだということ。純粋に謎を解いていく、もしくは役に立つものを作ることに情熱を注ぐ、それが研究だと教えてもらったことは、今も研究を続けていく上でのモチベーションになっています。

ソフトウェアは  
クリエイティブで魅力的。  
オリジナルの言葉で記述を  
心がけています。

工学の魅力は新しいものを作り出せること。私自身はソフトウェア関係なので、パソコンさえあれば新しいものが作れると自負しています。プログラムを書くことは、ひとつの世界を記述しているのと同じ。何も無いところから自由に、理(ことわり)やルールを作りながらひとつの世界を作っていく。それは、非常にクリエイティブなことであり、大きな魅力を感じます。そして必ず守っているのは、データを捏造しないこと。自分の作ったアプリケーションなどの結果や、出力したものにも一切、手を加えないよう気を使っています。また、当たり前のことですが、論文なども自分のオリジナルの言葉で記述することを心がけています。今は情報が氾濫していてコピー&ペーストは可能ですが、それでは自分の言葉にはならない。学生にも沢山ある情報をまず受け止めて咀嚼し、自分で考えて、自分の言葉で伝えることをしてほしいです。考えることは何もなくてもできるので、とにかく自分の頭で考えること。そうすれば、たくさんの情報の中からでも、取捨選択できる目を養うことができると 생각합니다。